

愛恵だより

第 2 号

2018年5月25日発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル 5F
電話：03-5961-9711 (代) / FAX：03-5961-9712
<http://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

福祉支援について

公益財団法人 愛恵福祉支援財団
理事長 高原 敏 夫



2017年10月1日発行「愛恵だより」創刊号に、「発刊によせて」の記事を執筆された濱野一郎理事長が昨年11月にお亡くなりになりました。当財団にとっては、誠に残念で大切なリーダーを失ったという思いに

駆られております。

その創刊号で「愛恵福祉支援財団」の理念と方向性を示して下さったので、福祉支援について少しだけ触れてみたいと思います。

最近「生活支援」や「支援の輪をひろげる」「狭間にいる人への支援」等「支援」という言葉が飛び交っています。支援とは何かという難しい定義的なことは置いて、当財団が実施している事業の対象は福祉に係わる個人や団体としています。

2018年度事業計画では、公益目的事業として「社会福祉の担い手の海外における研修」「講座・講演会等の開催」「福祉に関するエッセイの募集」「社会福祉育成事業」となっており、海外研修では特別養護老人ホームの施設長がアメリカ・オレゴン州のポートランド州立大学での学びと児童福祉の担い手へのシンガポールにおける研修が計画されました。

福祉現場の職員が海外に行き学ぶ機会が少なくなってきた昨今、当財団は貴重な存在になっております。エッセイの公募には毎年多数の応募があり、育成活動は1件約20万円の助成と大学院で社会福祉を学んでいる学生へ奨学金給付が内容です。

愛恵福祉支援財団は、収益事業として多少収入もあるが、主に基本財産の運用益で事業を推進していますので、活動には限界があります。有効な活用が出来るよう、ご指導と支援をお願いします。

濱野先生を偲んで

公益財団法人 愛恵福祉支援財団
評議員 岸 川 洋 治

濱野先生は大学在学中、「愛恵学園」でボランティアをし、1959年、西片町教会で洗礼を受け、生涯を一クリスチャンとして誠実に生きた。福祉への関心を深め、大学院卒業後、明治学院大学で研究と教育に携わった。その間、学生部長、宗教部長、ボランティア・センター長を務めた。何れも濱野先生の人柄にぴったりのものだった。

濱野先生は象牙の塔の正反対な生き方をした。その一つが横浜寿地区でボランティアを組織し、炊き出しや毛布の配布など一市民ボランティアとして長期間活動したことである。大学教員退職後は、「全身全霊を寿に注いだ」。(聡子夫人の挨拶状より)

寿での活動の様子を次のように記した。「私は寿町という簡易宿泊街で、ほぼ毎週『炊き出し』ボランティアをしています。朝、皆で肉や野菜、魚等を刻み、午後から500食～600食を配食します。ボランティアは、外部からやってくる人、寿町の住民含めて毎回50～60人ほど。私たちはどちらかというとお手伝い。主体は町の住民の皆さんです」。(『横須賀基督教社会館70周年記念誌』より)

濱野先生が寿の活動になぜ打ち込まれたのか、私は、アーノルド・トインビーが労働者階級に向かつて罪を告白したと同じ「罪意識」があったのではないかと推察している。

濱野先生の生涯を決定づけたものは愛恵学園との出会いであった。帰天時は、愛恵福祉支援財団理事長であったことは摂理といえよう。

濱野先生の歩みは、聖書の次の言葉そのものの生き方であったと強く思う。「自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ」。

キリスト者としての誠実な生き方を私たちに示してくださったこと、心から感謝申し上げます。

(横須賀基督教社会館 館長)

セツルメント運動と濱野一郎先生

金城学院大学 教授 柴田 謙治

愛恵福祉支援財団の理事長を勤められていた濱野一郎先生のご逝去を、心からお悔み申し上げます。

濱野先生は、横須賀基督教社会館のボランティアや理事長、愛恵学園のボランティアや愛恵福祉支援財団の理事長、興望館の評議員など、セツルメントとのつながりを大切にされました。

セツルメント運動の起源は、1884年にバーネット夫妻がイギリスのロンドンにあるスラム地区(貧しい人たちが集まって暮らす地域)にトインビー・ホールを設立し、住民に対して公開講座や青少年のクラブ活動などの文化活動をおこなったことです。

セツルメント運動はアメリカを経由して、世界に広がりました。スタントン・コイトは1887年にニューヨーク市にネイバーフッド・ギルドを設立し、2年後の1889年にはジェーン・アダムズがシカゴ市にハル・ハウスを設立しました。

1897年には、片山潜が東京にキングスレイ館を設立しました。1911年には大森安仁子が東京で有隣園を設立し、1918年には賀川豊彦がイエス団女子友愛救済所を開設し、1919年には長谷川良信が東京にマハヤナ学園を、そして日本基督教婦人矯風会外人部関東部会の婦人宣教師なども東京に興望館を設立するなど、日本の

セツルメントは成長期を迎えました。1930年には愛恵学園が設立されました。大阪でも1921年に大阪市立市民館(後の北市民館)と光徳寺善隣館が設立されました。関東大震災をきっかけに、東京帝国大学セツルメントも設立されました。1924年には東京帝国大学セツルメントが発足し、調査部や労働者教育部、市民教育部、児童部、相談部、医療部、託児所、消費組合などを設けました。戦時色が強まったため1938年に閉鎖に追い込まれましたが、戦後には東京大学セツルメントとして再建されました。

今日の日本では、横須賀基督教社会館や名古屋キリスト教社会館などのセツルメント系の施設が「日本地域福祉施設協議会」を結成し、活動を続けています。

セツルメントの原点は、貧しい人たちに大学生や大学の教員が友人として交わり、人格的に交流することでした。その後日本では高度成長期にスラム地区が減少し、セツルメントと貧困とのかかわりは少なくなりましたが、濱野先生はホームレス状態の人々への支援を「現代セツルメント」と呼び、罪意識から参画し続けました。セツルメント運動は、濱野先生の人生において大きな位置を占めたように思われます。

福音と宣教

愛恵福祉支援財団前史(1)



本法人は1930年アメリカ婦人宣教師ミルドレッド・アン・ペインによって東京都足立区に設立されたセツルメント愛恵学園が前身です。

ミルドレッド・アン・ペイン先生(1893～1988)は、北米ニューヨーク州の裕福な農家に生まれ、男二人、

女三人の兄妹のうち、女のまんなか。ペイン一家代々続いたクリスチャン一家であった。先生はハイスクールを卒えると、オベリン大学に学び、卒業後日本での宣教に召命を感じ、親族と別れて東京に向かった。

そして1928(昭和3)年、新設予定の愛恵学園の責任者となった。学園設立の目的は次のとおりである。

- 1 幼児を育てる
- 2 健康で清潔な環境づくり
- 3 健康な身体をそだてる。
- 4 青少年の心の拠りどころを確立する。

5 この世で悩み苦しむものを救済する。

6 キリスト教精神を育てる。

学園は当時の足立区本木1丁目に約5000平方メートルの土地を購入し、当時としては珍しい木造二階屋を建設し、「愛の家」と命名した。

翌1930(昭和6)年には、ナースリー・スクール(幼児教育施設)、乳幼児健康相談事業を他に先駆けて開始し、さらには日本メソジスト西新井出張所を設け、キリスト教伝道の拠点とした。これは日本基督教団西新井教会の前身である。(次号に続く)



※「愛の家」は、一棟が保存され、「愛恵まちづくり記念館」として、足立区の街づくりの拠点となっている。

社会福祉の担い手育成 海外研修事業

社会福祉制度が充実している先進国を訪問し、優れた社会福祉実践を体験的に学習します。

特にキリスト教の精神を基盤にして、社会福祉を担う人材を育成するため、サービスの利用者の日常生活を大切にされた支援や地域社会全体で支えている福祉活動のあり方を学習します。

2017年9月24日から30日にかけて、アメリカ・オレゴン州ポートランド州立大学及び市内3カ所の高齢者福祉施設で行われました。

参加者は、特別養護老人ホーム施設長および施設長に準ずる方、16名でした。



2018年度は、世界の高齢者ケアを学ぶため、再びアメリカ・オレゴン州ポートランド州立大学における研修が、10月に行われます。

また、児童福祉の担い手のための研修として、多文化共生社会と多文化家族へのソーシャルワークを学ぶため、シンガポールで、児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設で地域担当のソーシャルワーカーを対象にして2019年1月に行われる予定です。

手話教室



毎年1月募集、4月開講、全20回。入門、初級、中級、上級のクラスがあります。

講師は大槻年巳、加藤邦子、加藤信子氏他。



入門	はじめて手話を学ぶ方対象
初級	指文字と自己紹介ができ20回以上の手話学習経験のある方
中級	簡単な日常会話ができ40回以上の手話学習経験のある方対象
上級	中級レベル以上で所定の受講テストに合格した方

社会福祉活動充実 講座・研修事業

どんな時代でも、すべての人が健康で文化的な生活を維持できることが求められます。幅広い助け合いや学び合うことによって生活が豊かになることもあります。その一助として広く専門職、市民向けに情報とチャンスを提供しています。

公開講座

2017年度は、11月14日、北とぴあを会場に、川越厚氏により、「死を看取るために家族に出来ること～死をどのようにとらえ、受け止めたらいいのか～」の講演がありました。参加は80名でした。



2018年度は、障がい児者のためのデジタル録音図書制作講座、シンポジウム、セミナーが予定されています。

施設見学

2017年度は、二回行われました。

第一回は、2017年6月8日、「桜町ヨハネホーム」（東京都小金井市）でフィッティングサポートや看取りケア等を学びました。参加者は18名でした。

第二回は、10月13日、社会福祉法人トポスの会就労支援施設ウィズユー（東京都足立区）の見学を行いました。参加者は10名。



2018年度は、6月に若年性認知症介護施設、10月に児童養護施設の見学が予定されています。

愛恵エッセイ賞

社会福祉活動がなくてはならない社会制度として充実発展するよう、助け合いの体験や経験のエッセイを公募しています。主題は「豊かな福祉社会を創るために」としています。

2017年度第19回愛恵エッセイ賞募集は、「豊かな福祉社会を創るために～あしたに向かって～」をテーマに230件の応募があり、20件が受賞しました。

3月3日、銀座教会・東京福音会センターで表彰式があり、受賞者5名が出席しました。

最優秀賞受賞作は学生の部「被災地に立って感じたこと」、専門職の部「障害者の共生社会のための環境を整えて!」、一般の部「九十九髪、心眼のピアニスト」でした。

表彰式後第二部では日本基督教団使徒教会牧師（アジアキリスト教教育基金理事長）の小倉義明氏により「心が燃やされる」の講演がありました。



社会福祉育成活動推進支援事業

助成金給付事業

2017年度は、7月に公募を行い、99件の応募があり、77件に助成を行いました。



▲ 椎茸の古いほだ木をチップにして再利用しています。

2018年度は、地域福祉へ向けた助成を考え、キリスト教会などが地域で運営している子供食堂や地域活動、被災地域へのアプローチを重ねる方向で行われます。

ペイン記念奨学金

年額100万円を限度に授業料相当額を給付しています。給付期間は2年、毎年若干名の選考が行われます。

現在、5人が給付を受け大学院で研究を進めています。毎年研究成果の報告（中間報告を含む）が行われ、委員からの助言と指摘があります。

3月24日と27日の二回に分けて研究成果の報告会がありました。

Hさん「認知症グループホームの基盤となっている価値観の研究」、Yさん「介護福祉分野における中国人留学生の就労意向についての考察」、Wさん「急性期病院の医療ソーシャルワーカーの退院援助に関する研究」の報告と、中間報告2件を聞きました。



給付年額100万円以内（条件付）

社会福祉学大学院の学生。健康で学業成績、人物ともに優秀。奨学義務として大学院終了直後から就職し、受給の期間と同じ年数を社会福祉の現場又は社会福祉教育に従事すること。

詳しくはお問い合わせください。

愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分
北区中里2-6-1 愛恵ビル5F
電話 03(5961)9711

